

グループ全体の理系リテラシーを底上げへ

みずほ第一フィナンシャルテクノロジー

社長 安原 貴彦



当社は金融機関や事業法人の取引先に対して、リスク管理や収益分析、資産運用、データ解析などの知見を提供している。約150名の職員のうち120名ほどがエンジニアで、その85%ほどが大学院の修了者だ。みずほFGにQDTCコースで採用されて当社に出自してきているメンバーは、21年度入社第1期生10名と22年度入社第2期生7名。第1期生は当社での約2

年のOJT型専門研修や実践勤務を経て、来年4月以降、一部のメンバーがみずほ銀行などの専門部署に配属される。当社の高度専門人材は「自らの専門性で社会に貢献できる仕事をしたい」「引き続きその専門性を高める努力もしていきたい」という意識が強い。そのため、高レベルの教育・研修を心掛けている。QDTCコースでは入社後にみずほFGで新人研修を受けた後、6月に当社に出自となり、そこからは専門的なOJTに加えて9月末まで座学もみっちり組んでいる。座学では確率論やデータサイエンス、証券投資、リスク管理、デリバティブ、ITなどの講義を行うが、講師は博士号を取得している当社の先輩社員たちだ。なかには国内外の有名大学で教鞭を

とつていた人材もいる。

QDTCコース採用者に限った話ではないが、高度専門人材の職場環境はIT企業やスタートアップ企業と比べて遜色ないものにする必要があると考えている。そこで、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてよりモットワークを幅広く認め、社内の座席数も減らした。その分、オープンスペースを設けて、クリエイティブなディスカッションや気軽なミーティングができるようにしている。

今後、当社で専門研修を受けた人材がみずほ銀行などに配属されると、職場環境や業務運営の違いに戸惑う場面が出てくるかもしれない。しかし、銀行側でも専門人材への理解が広がり、彼らが各部署で専門性を発揮して活躍することがQDTCコース設置の目的だ。その結果、みずほFG全体で理系リテラシーの底上げが図られることを期待している。

(談)